

「IIC REVIEW」第50号発刊のお祝いとIICへの期待

株式会社 IHI
代表取締役副社長

出川 定男
Degawa Sadao



この度、貴社技術誌「IIC REVIEW」が、第50号の発刊を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

貴社は、IHIのエネルギー事業部門から独立した石川島検査サービス株式会社と、同じく技術本部（現技術開発本部）を母体とした石川島計測サービス株式会社とが、昭和57年に合併して石川島検査計測株式会社（平成20年に現社名 株式会社IHI検査計測に変更）として誕生しました。IIC REVIEWは、貴社が迅速に実力を培われた創立7年後の平成元年に創刊され、爾来、年2回の発行を確実に守られたことは、貴社が常に発展し続けられたことによるものであり、深く敬意を表します。

貴社はIHIグループにおける検査技術、計測技術、検査計測機器・装置技術の中核を担うという、極めて重要な使命を持っています。その拠り所は技術にあり、本誌各号の集大成は、貴社の技術ならびに成果の足跡を示しています。そして、本誌には特筆すべき大きな特徴があると認識しています。すなわち、電力関係や鉄道関係をはじめとしたお客さまとの共同執筆と、大学や研究機関との共同執筆が多いことです。前者は、単なる理論に

留まるのではなく、実際の現場ニーズに即した課題解決を追求し、後者は、最先端の学術的テーマに挑戦していることを示しています。これは、短・中期的な事業活動と、中・長期的な事業発展とのバランスを考慮された貴社の経営姿勢を物語っています。ここに、執筆くださったIHIグループ内外の皆さま、編集に携われた方々に、改めて深くお礼申し上げます。

さてIHIグループは、今年度から将来の「成長」をめざしたIHIグループ経営方針2013をスタートさせました。ご存知のとおり、そのキーワードは3つの「つなぐ」です。貴社の事業活動は、これらの全ての「つなぐ」に密接に関係しています。まず、第一の「既存事業間、既存事業と周辺事業とをつなぐ」においては、「計測」と「制御」とは一对をなすべきものであり、文字どおり「つなぐ」テーマには事欠きません。最近のグループ内での適用例として、水門と水深・地震センサとをつないで、緊急水門開閉制御システムが挙げられます。第二の「製品・サービスとICT（Information and Communication Technology）をつなぐ」については、申すまでもないでしょうが、検査・計測データはIHIグループの宝物です。宝物を取得・整理

するための ICT 活用のみならず、所謂ビッグデータ解析を駆使して、新しい事業に展開できるのは明白です。第三の「グローバル市場と IHI グループをつなぐ」については、貴社の保守本流の事業領域において、グループ内の関係事業部門とも協調して、お客さまへの提案活動を従来以上に活発化することにより、予防・保全サービス等を含めた Sales After Sales の事業拡大が期待されます。

これらに共通するのは、「総合・統合」と「知能化・情報化」です。貴社の英文名称は、IHI Inspection & Instrumentation Co., Ltd. ですが、Integration & Intelligence を標榜しつつ、飛躍的に発展し、IHI グループの「成長」に大きく貢献されることを確信しています。

IIC REVIEW もこれに呼応して、更に充実した技術誌として第 100 号をめざして発展されることをお祈りいたします。